

2015/16 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報



第 2542 回例会 2016 年 4 月 6 日 (水) SAA (司会) / 長田会員 会報担当 / 齊藤会員

事務局 市原市五井中央西 1-22-25 市原商工会議所 2F 例会場 五井グランドホテル

- 点 鐘 市原 RC 会長 万崎英正
- ソング 我等の生業
- お客様 杉井義之様 (新入会員予定者)

- 会長挨拶 市原 RC 会長 万崎英正



先週、地区から嬉しい案内がありました。津留会員が奉仕活動優秀ロータリアンとして 4/29 日、地区研修・協議会において表彰されることが決定したそうです。理由としまして RIJYEC に於ける深い専門知識を以て全国的な指導者として活躍なされたということだそうです。津留さん具体的にどんな奉仕活動なのでしょう。

あまりにもグローバルな奉仕活動なので津留会員がその様な奉仕活動をなさってきたとは、今まで存じ上げませんでした。今年度は白鳥バスターと津留会員のお 2 人の受賞がなされるということは、当クラブにとって実に嬉しいことでもあります。本当におめでとうございます。クラブの雰囲気も西村年度に向かってどんどん上昇気流に乗ってきた様な気がします。

さて今日のメインプログラムは西村会長エレクトの次年度に向けた方針卓話をご用意されています。どんな方針を考えているのか、どんなことがしたいのか、どういう風に舵を取りたいのか、じっくり聞きたいと思いますので、遠慮なしに話してください。会員全員が期待しています。

《RIJYE とは》

目的

この法人は、世界中の人々に対して、留学に関しての問題点の把握、原因の究明、解決策の検討事業を行い、留学しやすい環境を整備し、国際交流の向上と平和に貢献することを目的とします。

この法人は、上記の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行います。

- (1) 社会教育の推進を図る活動

- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 子どもの健全育成を図る活動
- (8) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

この法人は、上記目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行います。

- (1) 留学支援事業
- (2) 国際交流支援事業
- (3) 啓蒙活動事業
- (4) 本法人と同目的を有する団体への支援事業

設立趣旨

当法人は、世界への学生派遣と世界からの学生受入という交換留学を行い、学生を国際親善大使として、受け入れ先文化と派遣先文化を安全に且つ安心して学びうる環境を育むための活動を支援するものです。

その理念は、「国際理解と平和の最高の推進力は、異文化を体験することです。異なる国の文化と生活習慣を経験することによって、その国の人との相互理解が深まります。この相互理解こそが、いつの日にか訪れる未来永劫の平和と協調の基盤となりえる」、ことにあります。当法人は、社会奉仕の一貫としての、交換学生留学のあるべき姿、学生のあるべき姿、ホスト・ファミリーとその支援団体のあるべき姿、青少年交換の問題点と解決法等を研究し、広報し、地域社会の理解と協力をお願いし、学生に対してはそのノウハウを教授するものです。



奉仕活動優秀ロータリアン表彰
ロータリー財団年次寄付



津留会員
宮地会員

◆◆◆◆◆ 幹 事 報 告 ◆◆◆◆◆

地区内クラブの皆様よりご寄付いただきました台南大地震への義捐金に関しまして 御礼と送金のお知らせの文書が地区より来ています。

◆◆◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆◆◆

三宅社会奉仕小委員会委員長

地域貢献基金募集要項について

4月20日例会時に会員に諮問

青葉台さわやかネット挨拶運動を JR 3 駅と牛久駅にて参加協力

今井青少年小委員会委員長

市原中央高校インターアクトとの交流イベントを5月14日

ドイツ村にて開催。多くの会員の参加を

西村長期計画委員会委員長

4月27日第3回クラブ協議会を開催

◆◆◆◆◆ 会員研修卓話 ◆◆◆◆◆

会員研修小委員会 小池清二会員

この講話は2週間後のテーブルディスカッションのテーマで有りまして、今後のクラブでの奉仕活動を考える上で、多少の基礎資料となるものです。

【資料は後ページに掲載しております】

本日のメインプログラム

「会長エレクトに任じられて」

西村芳雄会員



先ず初めに、次年度の委員会組織については既に発表させていただいておりますが、会員の皆様のご了解を得ずに行いました。ご不満の方もあるかとは思いますが、そこはロータリーの伝統であります寛容かつ寛大なお心でもってご承諾頂けるものと勝手に判断させていただき、4月6日次年度第1回の理事会にて承認を得ました。この組織で1年間運営して参りますので、ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、私は、来る7月1日より第53代の会長に任じられます。半世

紀以上もの長きにわたる由緒あるクラブですので、武者震いだったらしいのですが、今はただただ身震いするばかりです。しかし、私にも責任感を持ち合わせておりますので、精一杯、その職務を全うしたいと思っています。

そして、今日の演題はその方針卓話となっております。しかしながら、会員の皆様のお叱りを受けるかもしれませんが、まだまだ構想の段階です。3月26日の会長エレクト研修セミナーと今月29日の地区研修・協議会を経て会長の資格を得ます。そのような場などで更に勉強させていただきたいと思っていますので、本日は私のロータリー歴や現在までの経験や心境あるいは心得などを述べさせていただきます。

私が入会したのは、2008年（平成20年）1月9日です。この場所で、時の会長でありました角谷バスト会長より、ロータリーのバッジ等を授与され、晴れてロータリアンの一員として認めて頂きました。その時、入会の挨拶をさせて頂いたのですが、今思いますに、流石に緊張していた事だと思います。何しろ、初めてお目にかかる方が多数ですし、また、経験豊富な人生の先輩方を前にし、愚にもつかない事をしゃべる訳にもいきませんので。私にとりましては、まだしも、結婚式で祝辞を述べたほうが楽だと思っていたはずですが、人前で長く話すのは苦手でありますので、今日もドキドキしております。それから早いもので、8年と3ヶ月が経ちました。会長エレクトに任じられてから、特に思っていることは、自分はロータリアンとして何をしてきたのだろうか。そして、少しはクラブのお役に立っているのだろうかと自問ばかりしております。

私は、入会以来、この名誉あるクラブを貶めるような事を絶対にしない、また、してはいけないと思ってきました。その為には、ロータリアンとして言動や行動には気を付けなければと、「四つのテスト」や「ロータリーの目的」そして「ロータリーの行動規範」を念頭におき、常に日々を過ごしてきたつもりです。自分では、そう思いたいのかも分かりませんが、実際にはどうだったのでしょうか。少し不安です。

そして入会后、色々な委員会に配属されたのですが、最初に委員長を拝命されたのはロータリー情報委員長でした。入会して2年半後です。何をすれば、何をすべきか五里霧中でした。その後は、親睦活動委員長、会員増強委員長、ロータリー財団委員長、そして昨年度は初めての理事と職業奉仕委員長を拝命し、今年度は長期計画委員長とクラブ管理運営委員長・職業奉仕委員と色々な委員会を歴任させて頂いております。その間にも当然ながら、地区の協議会等に事あるごとに出席し、勉強させていただきました。そして、地区委員の方や他のクラブの多くの方達と知り合うことが出来、私にとりまして世間が少し広がったのはロータリーのお蔭だと感謝しております。

特に今年度は、万崎会長のCLPを行うという強い方針により委員会組織が改編されました。その中で、クラブを長期的に如何に発展させ活性化を図っていくかということで長期計画委員会が発足し、私とその委員長を拝命しました。クラブの方向性などを議論する委員会ですので、当初より責任重大な役割だとひしひしと感じておりましたが、先輩会員などのご意見を伺いながら現在進めております。そして、「クラブ活力テスト」や「会員満足度アンケート」を実施し、会員の皆様の色々なご意見や考えを知る事が出来ましたし、また、クラブの今置かれている状況をも併せて知ることが出来ました。そして、それを将来にどう継続していくか、あるいは改善していくかなど委員会では活発な議論を行っております。これらのことにより、クラブの活性化には、全ての委員会が事あるごとに頻りに会合を開き、所属委員の活発な意見・考えを交換する事が如何に大事かということが良く分かりました。

ここで、RI会長エレクトと地区ガバナーエレクトの指針などを紹介させていただきます。

2016 - 17 年度ジョンF・ジャーム国際ロータリー会長は、講演の中で次のように述べておられます。

111年の歴史の中で、会員は、ロータリーを通じて友人と出会い、地域社会とつながり、目的意識を持ち、人びととの絆を育み、キャリアを築き、ほかでは味わえない貴重な経験をしてきました。毎週、世界 34,000 以上のクラブのロータリアンが、語らい、笑い、アイデアを分かち合うために集います。しかし、私たちが集う一番の理由は、最も大切な目標、すなわち「奉仕」のためです。ポリオ撲滅から私たちが学んだ多くのことの中で、最も大切ながら最もシンプルなこと、それは、ロータリー全体の発展を望むなら全員が同じ方向に進まなければならないということです。ポール・ハリスは晩年、ロータリー設立の経緯について振り返り、次のようにつづっています。「個人の努力は個々のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結集は、人類の奉仕に捧げなければなりません。結集された努力に限界というものはありません」と。このように述べられ、次年度のテーマを「Rotary Serving Humanity= 人類に奉仕するロータリー」とし、最優先取組事項に「ポリオの完全撲滅」、最重点取組事項に「会員増強」とする旨、宣言されました。

また、青木貞雄次年度ガバナーは、地区運営方針と行動指針の中で「感謝と挑戦」をテーマとされ、次のように述べられました。

近年、当地においては、毎年100名を超える新規会員が誕生していますが、同時に、ほぼ同数の会員が退会しており、その多くは、高齢者及びロータリーの活動について未だ十分に理解・知識を身に付けていない入会2~3年の会員です。斯かる現状を勘案すると、私達が直ちに取組むべき課題は、会員の皆さんがロータリアンになって良かったと思うようなクラブの活動・運営の具現化であり、同時に、活発なクラブの活動・元気なクラブの活動を、仲間の輪の拡大に繋げる会員の意欲醸成です。このように述べられ、全会員による会員増強・退会防止への取組み、会員間友好増進活動の推進、奉仕プロジェクトの積極的展開推進などを挙げられました。

私は、このお二人の方針からして、世界中のクラブが同じような状況に直面しているからだと推察しております。私たちのクラブは果たしてどうでしょうか。同じような現況ではないかと思えます。会員増強においても、奉仕プロジェクトなどについてもしかりです。

これら直面している諸問題に対しては、先ほど申し上げましたが、委員会活動を活発に行うことだと思っています。それがまた、クラブを元気にする秘訣だと思えます。全会員の皆様が、それぞれの思い・意見を述べ合うことにより解決の方針が定まってきます。また、そうすることにより親睦も深まってくると思えます。是非にでも、各委員会で目標やプロジェクトを計画し、実行しそして結果を出して頂きたいと思っています。そのうえで、私たちの行っている活動を、いろいろな方法で地域社会に広く紹介していくのが肝要ではないでしょうか。そしてまた、地域の住民とともに奉仕活動を行い、ロータリーが社会に溶け込んでいければとも思っています。ロータリー活動を通じて地域に認知されていけば、延いては会員増強など色々な面でそれがプラスに作用してくるはずで、直しくお願い致します。

また、例会におきましても、会員の皆様が発言する機会が増えれば、より和やかなより楽しい会になるのではとも思っています。これは一例ですが、ニコニコを利用出来ないかなと。今は親睦委員が行っておりますが、ニコニコする人が自分で発表するのです。どうでしょうか。検

討の余地が十分あると思います。その他いろいろな事について、会員の皆様にお諮りしながら、且つ、基本を忠実に守りながら、少しずつ改革改善出来ればと思っています。

脈絡がない拙い話になりましたが、岡本幹事に支えられながら、肩肘張らずに一年間自然体で頑張ります。会員皆様のご協力を再度お願い申し上げます。

「ロータリーを語り、みんなで元気なクラブを創ろう」で、締めくくります。ご清聴有難うございました。



赤星会員 まだ会員の「はしくれ」です。職業奉仕に明け暮れています。富津工場竣工のご祝儀をいただきました。遅ればせながら御礼申し上げます。有難うございました。若い人達が走ります。第3の創業です。

小池会員 本日の講話は短時間の為、意味が通じません。資料を持ち帰り、ご一読して2週間後のテーブルディスカッションにご参加下されば幸いに存じます。

三宅会員 さわやか挨拶運動のキャッチコピー、数件頂いております。もう少しあればと思います。いつもご協力ありがとうございます。

西村芳雄会員 脈絡がない拙い卓話で申し訳ありません。皆様の寛大なお心で私の真意を付度していただければ幸いです。

万崎会長・平野幹事 西村会長エレクト、船出の準備万端。天気晴朗にして波穏やかなり。荷の積み過ぎにご注意下さい。

■出席報告 前々回確定 62.85% 本日出席 34 名
欠席 8 名 本日出席率 94.73%

■点 鐘 市原 RC 会長 万崎英正

国際奉仕・青少年奉仕

2016. 4. 13.

会員研修小委員会

小池 清二

この講話は2週間後のテーブルディスカッションのテーマで有りまして、今後のクラブでの奉仕活動を考える上で、多少の基礎資料となるものです。

ロータリーの目的の第4に、国際奉仕について次のように謳われています。

「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」。

温故知新、過去を知り、評価をして未来を切り開いて行くことを毎年実施しなければ停滞していることとなります。世界のロータリアンが理解をして実践していくことがロータリーの究極の目的であり、世界平和が達成できるのです。

(国際奉仕理念の変遷)

1905年 シカゴにロータリークラブ創設

1906年 定款にシカゴ市民の利益の推進が加えられ、**社会奉仕の概念**が生まれる

1908年 アーサー・フェデリック・シェルドンが入会して、**職業奉仕の概念**が生まれる

1912年 金銭的奉仕や身体的奉仕のを積極的に推進すべし派の台頭。

以後10数年間も職業奉仕派と社会奉仕実践派の論争が続く

1914~18年 世界第1次世界大戦中、アメリカからヨーロッパへロータリアンやその子弟が渡り、国際的親交を深めて行きました。

1917年 団体奉仕と金銭的奉仕を旗印に、ライオンズクラブが誕生。これを受けてか

1917年 アーチ・クラフ基金（ロータリー財団の前身）が生まれる

(財団の主旨) 全世界的規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野でよりよきことをするための基金をつくらうとするもの

1921年 外国初のエジンバラ国際大会で国際連合会の綱領に新たに第4条が採択された

(第4条) ロータリーの奉仕の理想に結ばれた、あらゆる国の実業人と専門職業人の親交を通じて国際間の平和と親善の推進に助力すること

(**国際奉仕の概念が発表された**)

1922年 ロサンジェルス国際大会で、国際連合会から国際ロータリーと改称される

(第4条) は温存され、6項に明文化される

ロータリー数：975、会員数：70,000名、国数：22

国際ロータリーの綱領がロータリークラブに対しても採択され鼓吹育成を促す

1. すべての尊ぶべき事業の基礎としての奉仕の理想
2. 実業及び専門職の道徳的水準を高めること
3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の機会として知り合いを拓めること
5. あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること、

そしてロータリアン各自が職業をつうじて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること

6. ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人と職業人の世界的親交によって、理解と親善と国際間の平和を推進すること

1923年 決議 23-34 が採択され、ロータリークラブやロータリアンの奉仕理念を明確に定義され、活動の道標として今日まで変更なく、推奨されて来ています。

1924年 ニコニコボックス発足（社会奉仕に活用）

1927年 ロータリーの綱領を四大奉仕に類型化、（原理のロータリーから実践のロータリーへ構築される）

ロータリー数：2,628、会員数：129,000名、国数：45

1. クラブ奉仕活動

2. 職業奉仕活動

3. 社会奉仕活動

青少年育成

4. 国際奉仕活動

国際奉仕は奉仕の理想「最もよく奉仕する者、最も多報いられる」であるロータリー哲学の信奉者が手を繋ぐことによって国際親善、国際理解が出来、その善意を交換し、理解を深めることで世界平和を打ち立てることが狙いである。

国際理解、親善、平和を推進するために実施するすべての活動をいう

1928年 ロータリー財団に名称変更

ロータリークラブでは賄いきれない奉仕活動プロジェクトを財団の資金使い、国際ロータリー活動を支援するものです

1962年 世界社会奉仕プログラム（WCS）人道的奉仕活動への転換

国際ロータリーの法則にしたがい実施する

世界社会奉仕活動(WCS)

国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うものです

今年度 PJRC とのマッチング・グラントでマレーシアある施設の改装費の拠出する案がこれに該当します

（活動の要件）

イ、プロジェクトが人道的奉仕活動である

ロ、2か国以上のロータリアンが関与

ハ、プロジェクトは1か国で実施

（メリット）

奉仕の相手と奉仕側が満足する
(資金調達)
個人+クラブ+WF+DDF+DSG

ロータリー財団委員会(役目)

クラブ会員からの寄付

財団活動とその広報

ロータリー財団支援 (寄付)

- ① 年次寄付 毎年あなたも 130 ドルを奉仕
 - ② 恒久基金 利子、配当だけをプログラムに
- 財団プログラム (教育的、人道的補助金、ポリオ・プラス)、
- ① 国際親善奨学金 (3~6 か月、1 年、2 年)
 - ② 研究グループ交換 (地区内実業人 4 名とロータリー 1 名で 4~6 週の海外研修)、受け入れ条件
 - ③ マッチング・グラント (2 か国以上のロータリーが参加)
 - ④ 3-H 補助金 (健康改善、飢餓救済、人間性向上)
 - ⑤ ポリオプラス計画 (ポリオ、はしか、百日咳、ジフテリア、破傷風、結核)
 - ⑥ ポリオ・プラス・パートナー計画 . . . (ビル・ゲイツ氏協力・ポリオ根絶最終仕上げに必要な手段のこと)
 - ⑦ 世界平和フェローシップ (旧・世界平和奨学生・フェローとなり、外国で親善使節の役を担う。
国際基督教大学が選ばれている)

財団学友 (財団補助金を受けた者やロータリー・ボランティア経験者の組織)

1978 年 3-H プログラム (保健・気が追放・人間性尊重) 補助金制度開始される

1985 年 ポリオプラス・プログラム開始される

1992 年 社会奉仕に関する声明が採択。

第 5 項 : 国際レベルのロータリープログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること。

1993 年 ロータリー親睦活動プログラム提唱 (旧 : 趣味・職業別親睦活動)

1995 年 ポリオ・プラス・パートナー計画創設

1996 年 ジアイ RI 会長が「新世代のための奉仕」を創設

2002 年 ビチャイ・ラタクル RI 会長が会員数最高となる

ロータリー数 : 30,256 クラブ、会員数 : 1,243,431 名、国数 : 200

「塵も積もれば山となる」、些少の浄財でも世界のロータリアンの数では
大きな力となる」 世界平和を !!

青少年奉仕

国際ロータリークラブ連合会の創設当初から、ロータリアンは子供や青少年のニーズを満たす奉仕に魅力を感じ、物を与える奉仕をしてきた。ロータリアン同士の利己的な商取引の批判をかわすためロータリアンは障害児事業を主要な社会奉仕と位置付け活動が進展した。

1921年 国際身体障害児協会が誕生した。ポール・ハリス会長、ダディ・アレン理事長身体障害児事業に積極的に取り組んでいたのと同じ頃、ロータリーは「青少年活動」にも積極的に関与し始めた。その多くの実例が当時のロータリー誌に紹介されていた。

1916年 青少年奉仕を常設委員会に含める

1920年 青少年奉仕を細則に導入する

1923年 セントルイス大会で「善良で健全な市民を育てる」青少年奉仕活動が討議。

当初は社会奉仕委員会の小委員会として発足。

次の時代、青少年の育成の重要性から第五奉仕活動部門と呼ばれるようになる。

2010年 新世代奉仕が第五奉仕部門に格上げされ五大奉仕となる

2013年 第5の奉仕部門に「新世代奉仕」から「青少年奉仕」に変更された。

「青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め、育む交換プログラムを通じて、青少年並びに若者によって、好ましい変化をもたらされることを認識されるものである。」 手続要覧第7章、推奨クラブ定款第5条に掲載。

若い人々の多様なニーズを調べ、より良き未来をもたらすために生活力を高め、将来の準備をさせることはロータリアンの責務である。

すべてのクラブと地区は、基本的ニーズ

健康

人間の価値、

教育

自己開発

を支援するプロジェクトを立ち上げるよう奨励されている。

青少年奉仕に関するプロジェクトには次のものがある。

青少年交換活動

18歳～25歳、個人またわグループ、3~6週間短期交換

クラブ対クラブ、地区対地区の実施、青少年交換プログラムの支援管理、両ガバナーの合意が必要。・・・PJRC 学生交換

国際青少年交換（財団国際親善奨学生）

15~19歳(高校生)、1年間(長期)、1~2週間（短期）、

クラブ対クラブ、国際ロータリーが指導管理、地区が仲介斡旋

「親善使節」を旨とし、選抜試験有り、旅費・保険料は学生側滞在費、食費、学費、小使いは受け入れ側、

ホスト家庭、学校、顧問ロータリアンを用意・・・地区幹旋
米山記念奨学会

寄付・・・普通寄付（会員全員）

特別寄付（会員の任意）

米山奨学金留学生・・・主に東南アジアの学生

李さん(千葉工業大学留学生)

インターアクト

1962年 初めてアメリカの高校で結成。12歳~18歳対象、

市原中央高校インターアクトクラブ(市原RC提唱)

ローターアクト

1968年 発足、18歳~30歳対象

ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）

18歳~30歳の若者とロータリアンが参加

ロータリー精神を浸透させる講習並びに訓練をする

これらの奉仕活動を通じて、青少年に才能と熱意を呼び起こし、奉仕と責任感を育てることを目的として活動を推進されてきました。

特に財団青少年交換、インターアクト、ローターアクト、RYLAは国際ロータリーの推奨プログラムで、全世界のロータリークラブで活動されています。

「各ロータリアンは青少年の模範です」 青少年の健全育成を！！

2週間後には、本日お話したテーマで、テーブルディスカッションが行われます。

明日の市原RCの発展を目指し、良き会議にしたいものです。

ご静聴ありがとうございました。

平成28年4月10日

市原ロータリークラブ
会長 西村 芳雄 様

桜さんさん会・花と緑の会
代表 河内 昌蔵
(Tel. 0436-36-8573)

「平成28年度 お花見会」のお礼

前略 この度は、「平成28年度 お花見会（桜さんさん会・花と緑の会 合同）」にお忙しい中をご出席頂きまして、大変有り難う御座いました。

皆様方のお陰をもちまして 約120名のご参加を戴き、大変楽しいお花見会となりました。

また、貴重な差入れを頂きまして、本当に有り難う御座いました。ご参加された皆様方も喜んで居られました。

私達は、微力ながら地元美しい桜並木や文化と芸術の里づくりを世代を繋いで進めたいと考えていますので、引き続きご指導・ご支援賜りますようお願い申し上げます。

ご参加下さった方々へも宜しくお伝え下さい。皆様方の益々のご活躍を祈念しております。

とりあえず、御礼申し上げます。 草々

